総合的な学習の時間

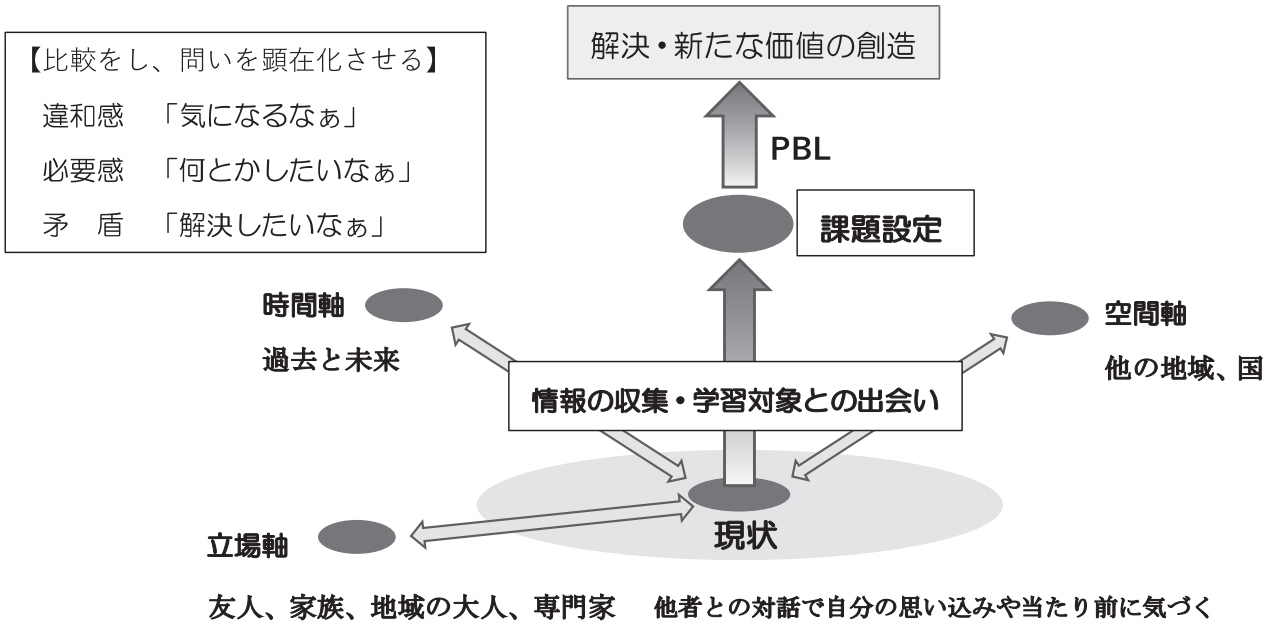
内発的な動機を呼び覚ますプロジェクト型学習（PBL）から育む資質・能力

社会の課題に気付き，解決策を試行錯誤し，自分で考え行動する力や協働する力を育むためには，学びたい，追究したいという内発的な動機が重要です。切実感のある状況や世の中を変えようと努力している人との出会い等，生徒の心に課題意識の火を灯し，地域に貢献しようとする探究的な学習のポイントを紹介します。

県中教研　総合的な学習の時間部　全県部長
新潟市立内野中学校
校長　佐藤　靖子

主体的で協働的に学び，新たな価値を創り出すための課題との出合わせ方

「なぜ，それを追究するのか？（目的）」知的好奇心や自己実現の欲求等，学びたい意欲へ誘うための人，社会，自然等の学習対象の関わり方や出合わせ方が，最初のポイントです。これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」，対象への「憧れ」や「可能性」から，このことを何とか解決したい，貢献したいという切実感が生まれるよう『自分ごと』として捉え，探究する価値のある学習課題を設定していくことが大切です。生徒の内発的な動機が，主体的で協働的に学ぼうとする意欲を持続させ，プロジェクト型学習（PBL）として，課題解決や新たな価値を創造するなど，学びを深めていくことができます。



考えるためのスキルと，アウトプットし合える学びの土壌づくり

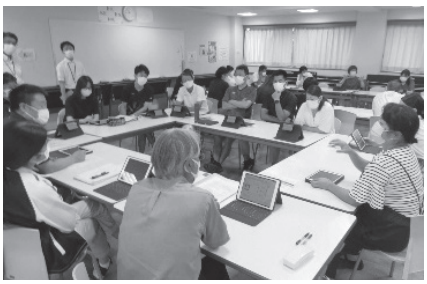
探究活動では，考えるためのスキルを活用させると学びが深まります。「整理・分析」の過程は思考力，判断力，表現力等を育てます。そして考えるためのスキルを用いて，情報を整理・分析したものをタブレットやホワイトボード等にアウトプットすることによって，生徒間で共有し，評価し合うことができます。また，協働学習で欠かせないことは，学びの土壌が整っていることです。学びの土壌とは，挑戦や失敗が応援される「安心安全の土壌」，違いを受け入れ活かそうとする「多様性の土壌」，日常的に問いが行き交う「対話の土壌」，地域にアクセスできる「開かれた土壌」です。課題に対し合意形成を図り最適解を導き，世の中をよりよくしようとする行動や，well-beingを向上させるために，教師は教える側のみでなく，生徒と共に学び合い，教師も自分ごととして一緒に探究しようとする大人の存在が生徒によりよい影響を与えます。

考えるためのスキル	順序づける	比較する	分類する	関連づける	多面的・多角的に見る
	理由づける	見通す	具体化する	一般化する	構造化する

教職員全員で組み立てる「総合的な学習の時間」カリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間について，校務分掌担当者や学年担当者が少数で計画，運営をしていないでしょうか？総合的な学習の時間は，生徒の資質・能力を最大限に育成できる領域です。教育目標と各校で育みたい生徒像，教育ビジョンに照らし合わせ，教科横断型の軸となるよう見通しとストーリー性やテーマ（柱）を教職員全員参加型のFT等で確認しながら，プロジェクト型学習（PBL）となるようカリキュラム構成を行う検討過程が重要です。そのために検討できる時間，場面の確保をします。

修学旅行についても，総合的な学習の時間と連動させ，今までの学習を活かし，課題追究するために，何の視点をもって，何を確かめたいのか？生徒にどのような出会いをさせたら，追究課題に迫れるのか？等，担当学年のみで計画するのではなく，総合的な学習の時間のカリキュラム構成を行う際に全教職員で一緒に計画をすると修学旅行のねらいや見通し，つけたい力が明確になります。



また，その学校独自の継続した追究学習を行うことで，先輩から後輩へ学習のバトンが渡り，経年変化調査等，長期に渡る追究活動を地域へ提供することにより，地域課題解決へより一層近づけ，地域貢献にも役立つ可能性もあります。

防災・減災学習や職場体験活動，地域の魅力紹介ビデオや成果物等，地域も学校からのアプローチを期待していますので，生徒の実態や時代のニーズのあった活動を精査し，持続可能な学習を継続することも大切です。

総合的な学習の時間　重点目標

学習過程と評価を中核に，主体的･対話的で深い学びが実現できるような学習指導を推進する。

○ 学習過程において，「課題設定」を工夫し，「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して，探究的な学習の充実を図る。

○「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め，それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し，学習評価の充実を図る。

総合的な学習の時間・防災教育 <中越地区・三条市中教研>

「学習問題を『自分事』としてとらえることのできる防災教育」

研究推進責任者
三条市立下田中学校
比護　一幸

会場校領域担当者
三条市立本成寺中学校
相馬　宏司

研究主題：学習問題を「自分事」としてとらえることのできる防災教育 ～自己の生き方に生かすための学習課程の工夫～
開 催 日：11月25日（金）
会 場 校：三条市立本成寺中学校
公　　開：全校
授 業 者：相馬　宏司＋全学年部職員
指 導 者：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい　赤塚　雅之 様
三条市教育委員会　指導主事　荒川　高明 様

こんな深い学びの姿を目指します

○防災教育を「知る」「考える」「行動する」の３つの段階に分け，課題を「自分事」として捉えることで，様々な場面で培った「見方・考え方」を働かせながら主体的に問題を探究する姿。
○発表場面等で，互いに意見交流をする姿。
○振り返りから，新たな課題を見つけていく「探究サイクル」を繰り返す姿。

深い学びにいたるポイント

ポイント１　小中９か年の学習課程の工夫

中学校区で防災学習ブック「災害と向き合う」を防災学習の教材として採用し，新潟県防災学習プログラムと併用した学習課程を編成する。
（メリット）
① 小中９か年の防災教育を体系的・計画的に推進することができる。
② 共通の基準での防災教育を行うことができる。

ポイント２　「体験的活動」を取り入れた単元構成の工夫

単元の学習過程に，内容に関わる体験的活動を取り入れる。
（メリット）
① 「体験的活動」を行うことで，課題を「自分事」として捉えることができる。
② 「課題」を自らの関心に基づいて条件設定することができる。

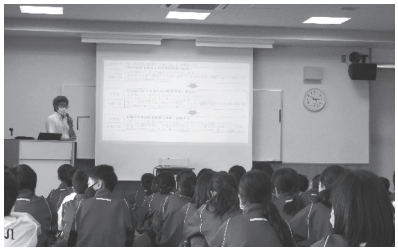
ポイント３　情報発信（発表会など），他者からの情報収集（意見交流など）の設定

発表会などの情報発信だけで終わるのではなく，他者からも意見をもらう情報収集の場を設定する。
（メリット）
① 発表により既有の知識と新しい知識をつなぎ,「新たな学び」へと変容させることができる。
② 意見交流により得た情報から，新たな課題へとつなげ，探究のサイクルが繰り返される。

単元（題材）の様子

① 中学校区で防災学習ブック「災害と向き合う」を防災学習の教材として採用することで，防災に関する共通の指導事項を実践し，正しい知識や考え方を獲得することができます。

ポイント１

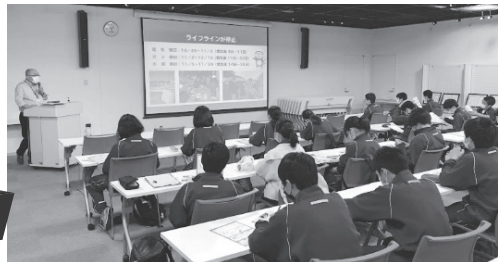


② 中学１年生では，洪水防災に関わる講話，防災マップ作りを通して，自分たちの住む地域の特徴や危険個所をまとめ，校内発表をしました。

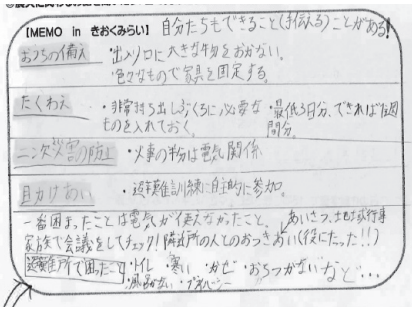
③ 中学２年生では，地震防災に関する講話，中越地震の被災地やアーカイブセンター見学，避難所運営講話やゲームなどの体験的活動を通して，それらを「自分事」として生活にどのように反映させていくかという実践的な態度を培う土台にしていきます。

④ また，それらの体験学習を次への学習に生かすため，ワークシートに毎回まとめ，ポートフォリオとして記録を残していきます。

ポイント２



⑤ 防災学習ブックやいくつかの体験学習を通して学んだ知識を生かし，自分の住む地域で災害状況を設定し，理想の避難をシミュレーションしながら，同地区の班員でまとめます。

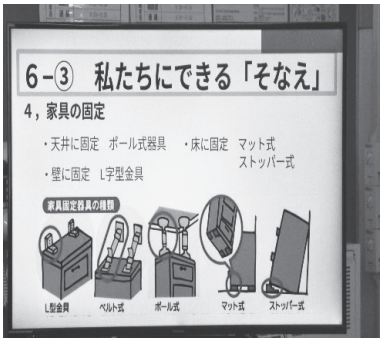


研究会

⑥ 災害から，自分自身や家族，地域を守るために何が必要で，何ができるのか「住んでいる地域の理想の避難」をまとめ，発表します。

また，意見交流する活動を通して，新たな課題へとつなげ，探究のサイクルが繰り返されるようにしていきます。

ポイント３



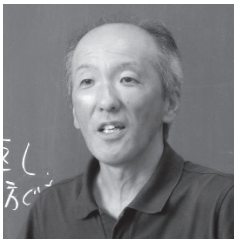
⑦ 中学３年生は，小学生への出前授業を行い，防災に関する学習を通して得た知識を，今後に必要なこととして練り上げ，発信します。この活動を通して，生徒は主体的に課題解決に向けて思考する姿勢を養っていきます。また，小学生は，中学校での防災学習をイメージし，これからの見通しをもつことができます。

総合的な学習の時間 ＜下越地区・佐渡市中教研＞

「佐渡の魅力をより多くの人に伝えよう！」

研究主題：探究的な見方・考え方を働かせ，地域の課題の解決を目指す総合的な学習
開 催 日：11月８日（火）
会 場 校：佐渡市立金井中学校
公　　開：３年Ａ組
授 業 者：３年　中川　一貴
指 導 者：佐渡市教育委員会　総合教育センター　所長　加藤　雄一郎 様

研究推進責任者
佐渡市立両津中学校
堀田　直也



会場校領域担当者
佐渡市立金井中学校
大木戸　雅人

こんな深い学びの姿を目指します

○生まれ育った佐渡の魅力に気付き，その魅力をより多くの人に伝えるための探究的な学習に主体的・協働的に取り組む姿。
○互いのよさを生かしながら，積極的に地域に貢献しようとする姿。
○佐渡の魅力を多くの人へ伝えるために，互いに意見を出し合いながらストーリーや撮影素材を選択し，説明を効果的に加えてYouTube動画を制作しようとする姿。

深い学びにいたるポイント

ポイント１　佐渡の魅力を認識し，その広報の方法を考える

この単元の根幹である「『佐渡の魅力をより多くの人に知ってもらいたい』という意欲」を高めるためには，まず生徒が佐渡の魅力を深く知ることが肝要です。そのために，佐渡の魅力をよく知る方々を招いて講話をいただきます。次に，「どうしたら佐渡の魅力を多くの人に知ってもらえるか？」を話し合わせます。生徒が提案した案は「YouTubeに動画を掲載して佐渡の魅力を広く発信する」です。

ポイント２　動画の訴求力を高めるためのシナリオ作成や取材・編集を工夫して行う

YouTube視聴者の興味・関心を引く動画制作には「魅力的に伝えるための番組構成力」が必要です。ここで，連続する様々な課題を解決していきます。

ポイント３　制作した動画を多角的に分析する

自己満足ではなく，視聴者に佐渡の魅力がよく伝わる動画にするために，協働的な学びを進め，他班と相互に動画の改善案を出し合います。

単元（題材）の様子

① まず，佐渡へのUターンや移住者など様々な立場の島民の講話を聞いたり，佐渡のことを調べたりして，佐渡の魅力を発見していきます。

ポイント１

② そのようにして佐渡の魅力を認識した上で，「佐渡の魅力をより多くの人に知ってもらう方法」について話し合います。ここで挙がった様々な候補から「佐渡の魅力をPRする動画を制作し，YouTubeに掲載する」活動を選択します。そして，地域の良さをPRするものをはじめとして多くのYouTube掲載動画を調べ，比較することによって，訴求力の高い動画の特長を知り，自分たちの制作する動画の方向性を考えていきます。

③ YouTube視聴者の興味・関心を引く約２分間の動画を制作するために，「ストーリー性の考案」「現地での撮影・取材」「PCソフトを使用しての編集作業」を班で行っていきます。

ポイント２

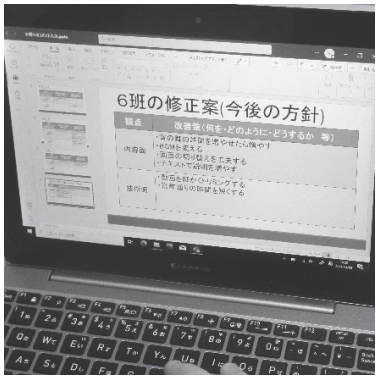
④ 編集作業を進めていくと「ストーリーに合う動画がもっと欲しい」などの新たな要望が出てきます。その解決のために２回目の現地での撮影・取材活動を行い，再び編集作業を続けます。

研究会

⑤ 《前半》制作途中の他班のPR動画を視聴し，その班の伝えたい魅力が上手に表現されている効果的な箇所と，改善した方がよい箇所を修正案を添えて班内で出し合い，他班に伝えていきます。

《後半》そして他班からのコメントを参考にして，自分たちが伝えたい佐渡の魅力をさらにより良く伝えるための改善策を，班内で考えていきます。

ポイント３



⑥ さらに２時間をかけて，動画の完成に向けての最終的な編集活動を行います。出来上がった各班の作品は，３年生全員によるコンテストを行った上で，優秀作品とされた数点をYouTubeにアップします。このコンテストにおいても互いの作品を批評し合うことによって，さらに多角的な見方を高めていきます。